

副専攻プログラム 「MAB/SDGs」 オリエンテーション



<https://youtu.be/BtOicniNDQw>
ユネスコエコパークビデオ【日本語】

・2022年度・春季開講分

ユネスコチェア = ユネスコが認定する高等教育研究プログラム講座。
この副専攻メニューのユネスコの国際標準化を目指す。

MAB = ユネスコ人間と生物圏 (Man and the Biosphere)計画(1971-)
自然と人間活動の調和を目指す

SDGs = 国連「持続可能な開発目標」(2015-30の17の目標)



副専攻プログラム = 主専攻以外に所定の単位を履修して修了証を貰う

オリエンテーションの流れ

- チェアホルダー挨拶
- 副専攻「MAB/SDGs」の概要紹介
- 履修案内
- 質疑応答

生物圏保存地域BRを活用した SDGsを担う人材育成

- 知の交流と共有を通じて、地域に密着しつつ、国際的な連携・協働を促進することにより、UNESCOの「人間と生物圏（MAB）計画」を活用して、国内外で持続可能な開発目標（SDGs）に即して活躍できる優秀な人材を育成する

修了要件

授業カテゴリー	単位数 (カテゴリー別)	単位数 (合計)
選択必修科目	2 単位以上	8 単位以上
環境保全／環境調和型都市／ SDGs基盤科目	4 単位以上	
MAB/SDGsグローバル化演習I またはII または相当する海外研修科目	1 単位以上	

- 選択必修科目
 - MABとSDGs（松田裕之・Miguel Clusener-Godt）
 - ESD入門（松葉口玲子）
- および以下を履修（全学教育科目）
 - MAB/SDGsグローバル演習

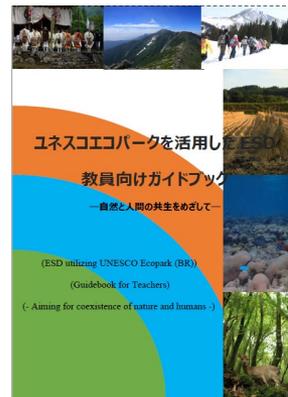
^[1] 交換留学等、本学以外で取得した単位についても、一定の審査を経て認められれば読み替え可能とする。

^[2] 海外研修科目の場合、生物圏保護区（Biosphere Reserve）実習もしくはそれに相当する内容が含まれている必要がある。MAB/SDGsグローバル化演習 I、IIではなく、「相当する海外研修科目」を修了単位とする場合、レポートの中でそれを示す必要がある。

- 目的 ユネスコ「人間と生物圏 (MAB)」計画は持続可能な開発と生物圏保全の調和を目指している。また、国連持続可能な開発目標 (SDGs) は環境保護と人間社会の包括的な発展を目指している。これらの理念を学び、環境・社会・経済の調和のとれた発展の方法を、学生自身が選んだ実践的諸課題について考え、議論し、MAB計画に基づくSDGsを担うとはどういうことなのかを学ぶ。
- 1.持続可能な開発目標(SDGs)とユネスコMAB計画(松田裕之、C-G)
- 2.世界遺産と生物圏保存地域 (BR)、ジオパークの比較 (松田裕之、C-G)
- 3,4:各国の生物圏保存地域の特徴と課題の紹介 (学生)
- 5.生態系サービスへの支払い (PES) と生物圏保存地域 (松田裕之)
- 6.ESG投資とBR製品のブランド化 (松田裕之)
- 7,8.各国、各自治体等のPESの取り組みの特徴と課題の紹介 (学生)
- 9.国連SDGsとBR優良事例の紹介 (松田裕之)
- 10,11.各国、各自治体等のSDGsの取り組みの特徴と課題の紹介 (学生)
- 12.ESD (持続可能な開発のための教育) について (動画提供?)
- 13. ESDと生物圏保存地域 (松田裕之)
- 14-15.BRを活用したESDプログラムを作ろう (学生)
- 16.最終発表 (学生)

未解決

PES = Payment for Ecosystem services



ESD（持続可能な開発のための教育）入門

松葉口玲子(全学教育／教養教育科目)秋学期2単位)

- ESD(持続可能な開発のための教育：持続発展教育)の概要について学ぶ。
具体的には、ESDが誕生するまでの背景や歴史、特徴的な学びの手法やテーマ、実践事例などを扱う。
- 1. ガイダンス
2. イントロダクション－ESDとは何か
3. ESDとSDGs・消費者教育
4-5. 人類の成長基盤：教育の段階（1）
6-7. 教育の平等と公正（1）
8. 環境と経済
9-12. 教育環境の整備とパートナーシップ（1）
13. ESDプログラムを作ろう
14. ESDプログラムを発表しよう
15. まとめ
- 教科書 北村友人ほか「[SDGs時代の教育：すべての人に質の高い学びの機会を](#)」

要確認

MAB/SDGs関連科目(案、2022/2現在)

	授業リスト	
MAB計画とSDGs(環境)	ESD入門(教育)	ユネスコ・グローバル化演習II(環境)
□□□□II□□□□	流体力学I(機械)	
環境調和材料(材料)	電磁物性(材料)	
海洋工学と社会(海洋)	海洋開発概論(海洋)	□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	エネルギーマネジメント論(化学応用)
□□□□□□□□□□□□	安全・環境化学(化学応用)	植物科学I(バイオ)
□□□□□□□□□□+□	物理学と先端技術(物理)	物理キャリアアップ(物理)
エネルギーと環境(電情)	電気エネルギーシステム工学(電情)	電子情報システム概論(電情)
□□□□□□□□□□□□	マルチメディア情報処理(情報)	データサイエンス(情報)
機械学習(情報)	セキュリティ情報学(情報)	□□□□マネジメント□□□□□□
□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□
現代ポピュラー文化論講義(社会)	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□
東アジア近現代史講義(社会)	東アジア都市社会論講義(社会)	格差社会と社会的包摂講義(社会)
□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	
西洋建築史I(建築)	西洋建築史II(建築)	日本建築史I(建築)
日本建築史II(建築)	近代建築史A(建築)	近代建築史B(建築)
□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	
都市計画と交通(基盤)	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□
国土学とグローバル社会I(基盤)	国土学とグローバル社会II(基盤)	
生態リスク学入門(環境)	生態リスクマネジメント事例研究(環境#)	環境をめぐる諸問題II(環境+)
環境汚染の科学I,II(環境)	社会環境リスク共生概論A(環境)	環境リスクとつきあうI(環境+)

環境保全／環境調和型都市／SDGs基盤科目

	授業リスト	
地球科学(環境)	高齢社会とリスクA(環境)	高齢社会とリスクB(環境)
個体群生態学・進化生態学概論I(環境)	個体群生態学・進化生態学概論II(環境)	生態系と物質循環I(環境)
生態系と物質循環II(環境)	生物群集とリスクI(環境)	生物群集とリスクII(環境)
都市生態学(環境)	里地と山地の生態学I(環境)	里地と山地の生態学II(環境)
保全生態学(環境)	□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□
都市・地域経済学I(環境)	都市・地域経済学II(環境)	環境法I(環境)
環境法II(環境)		
□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	人と自然のかかわり(教育+)
□□□□□□□□□□□□	自然地理学(教育)	□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□	
地域連携と都市再生B(経済)		途上国経済(経済)
中級途上国経済(経済)	比較農業政策(経済)	中級比較農業政策(経済)
企業環境マネジメント論(経営)	地域環境マネジメント論(経営)	International Business(経営)
マクロ会計論(経営)	ビジネスゲーム(経営)	情報システムとイノベーション(経営)
ビジネスエコノミクス(経営)		

要確認

MAB/SDGsグローバル化演習 I or II:

- 持続可能な開発目標（SDGs）を達成するため、グローバル化時代の知的競争に対応し、世界を舞台として活躍できる人材が求められている。本演習では、担当講師が準備した海外連携大学とのショートビジット・遠隔講義、「SDGs国際フォーラム」への参加等の実践を通じて、グローバルな舞台で活躍できる人材となるための研鑽を積む。本演習は通常の授業とは異なり、指導教員グループと相談した上で、事前指導、事後指導(成果報告会等)を学生自らが計画し、専攻の討議を経て学府長の承認を受けた後に、その計画を実行することにより、単位を付与する。
- 本演習は通常の授業とは異なり、指導教員グループと相談した上で、以下に挙げる1つまたは複数の演習内容の組合せ、事前指導、事後指導(成果報告会等)を学生自らが計画し、専攻の討議を経て学府長の承認を受けた後に、その計画を実行することにより、単位を付与するものである。
- 演習内容・海外連携大学へのショートビジット
- ブリティッシュカウンシル派遣講師による英語研修会
- 英語のスキルに応じてクラスに分かれて受講し、国際会議等において学術的な情報交換のできるスキルを習得
- SDGs 国際フォーラムへの参加
- 自分の研究成果についてポスターセッションで発表



2020申請時
のもの
要推敲

PBL ≈ ESD
PBL ∈ Active Learning



MAB/SDGs グローバル化演習 I or II:

- スケジュール (案)
- [海外PBL開始前・横浜国立大学にて] ・初期ガイダンス (安全・セキュリティ研修など)
- [海外PBL1日目] (日曜日) 日本からの派遣
- [海外PBL2日目] (月) ・協定校とのオープニングイベント ・PBL活動の指導 ・PBL活動 (学生は材料力学、伝熱、ロボット制御からコースを選択) 【海外PBL3日目】 (火) ・協定校とのオープニングイベント ・PBL活動 (学生は材料力学、伝熱、ロボット制御からコースを選択)
- [海外PBL3日目] (火) ~PBL活動 (つづき)
- [海外PBL4日目] (水) 地場産業への教育旅行
- [海外PBL5日目] (木) PBL活動 (つづき)
- [オーバーシーPBL6日目] (金) ~ワークショップ発表準備~合同ワークショップ~クロージングイベント
- [海外PBL7日目] (土) ~文化史跡 (ユネスコ世界遺産など) への教育旅行)
- [海外PBL8日目] (日曜日) ~ 帰国
- [海外PBL終了後] ~フォローアップ~最終報告会

2020申請時
のもの
要推敲



JASSOの補助

- 一人7万円を補助・・・

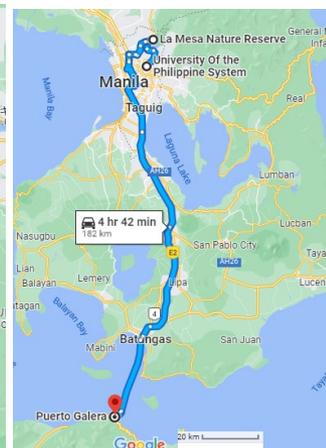
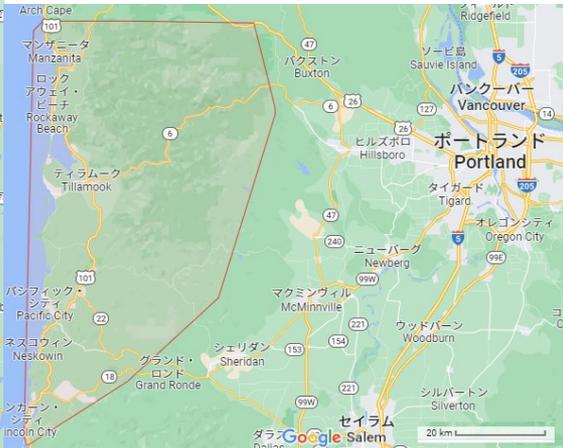
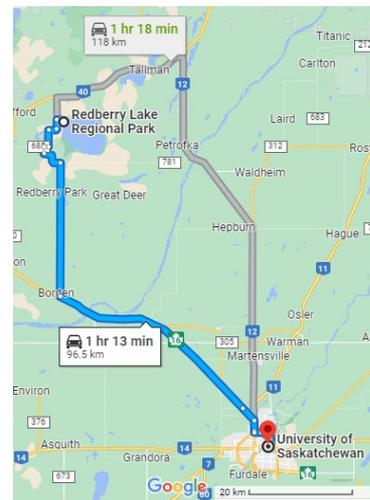
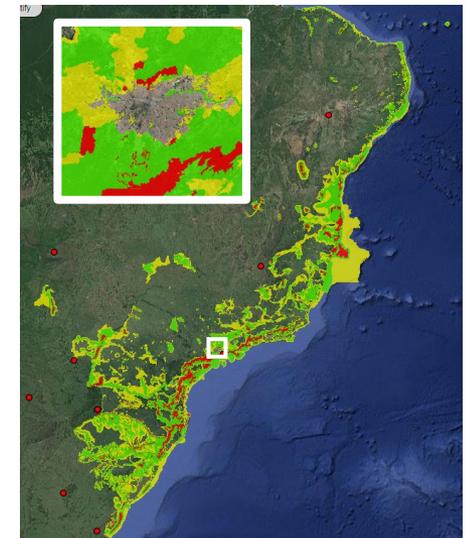
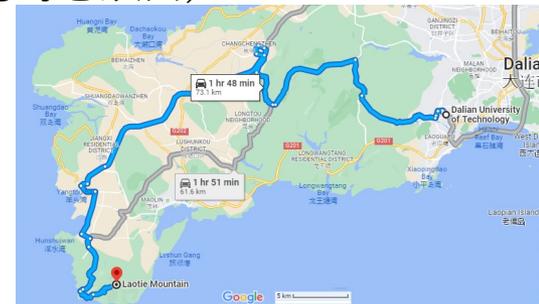
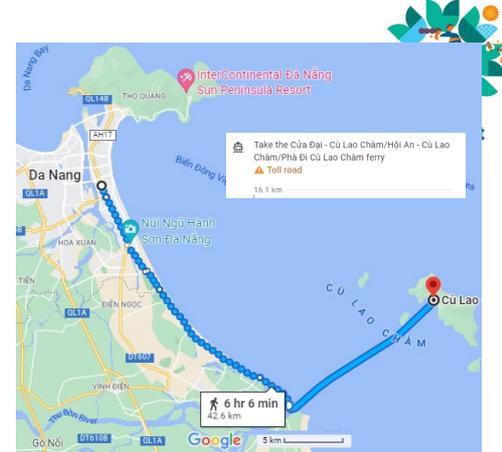
必要か？
要加筆



ポートランドを追加

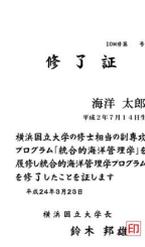
海外研修先の例

- Danang Univ. – Cu Lao Cham – Hoi An
- Univ. of São Paulo – Mt. Atlântika
- Dalian Univ. – Snake Is. & Mt. Laotie (蛇島老鉄山)
- Prince of Songkla Univ. – Ranong BR
- Univ. Saskatchewan – Redberry L. BR
- Univ. of Philippines – Puerto Galera
- Univ. of Portland – Cascade Head BR

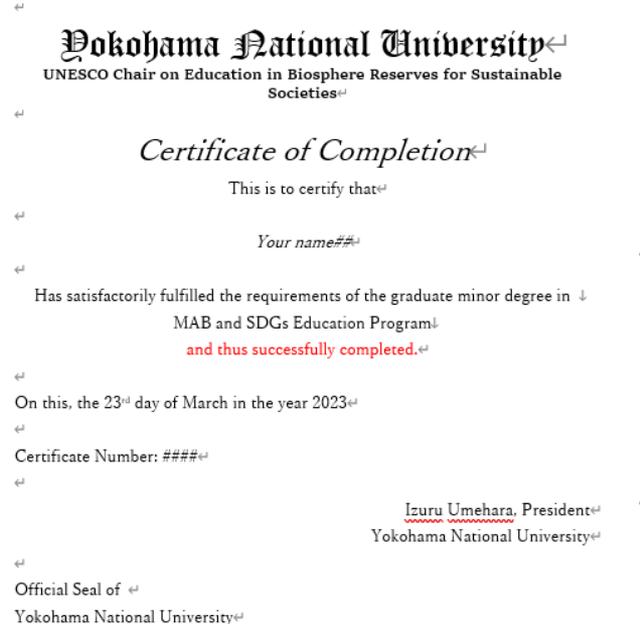


修了証 (学長名)

副専攻P申請書にはプログラム名と副専攻名は同じとした(海は違う)



- 副専攻プログラム修了者には、卒業時に「主専攻」の「学士号」に加え、「副専攻の修了証 (Certificate)」を授与



第 号

修了証

氏名

生年月日

ユネスコチェア「生物圏保存地域を活用した持続可能な社会のための教育」プログラムに基づく横浜国立大学の学士相当の副専攻プログラム「MAB・SDGs」を履修し修了したことを称します。

横浜国立大学長

梅原 出

準備中。イメージ)

副専攻P運営委員会（履修認定）

- ユネスコチャェアホルダー 松田裕之
- 教育学部 倉田薫子
- 教育学部 松葉口玲子
- 経済学部 氏川恵次
- 経営学部 近藤久美子
- 都市科学部 小池文人
- 理工学部 松井和己
- 副学長 椋島洋美
- 横浜国立大学 教育企画課（内線####）

An orange callout box with a blue border and a pointer on the right side, containing the text "連絡先".

連絡先